

AI配筋検査端末「Field Bar®」

(三菱電機エンジニアリング株式会社製)

AI技術とICTを活用し**高精度で確実**な配筋検査を**短時間・少人数**で実現



雨に強い防水仕様(IP65)

日差しの強い屋外でも見やすいディスプレイ

現場で抱える課題

事前の準備作業から検査後の報告書作成まで、多くの時間と労力を要してきた鉄筋検査。とくに、鉄筋の径を区別するマーキングや間隔を示すスケールの設置など、検査前の準備作業には多くの時間や手間がかかり、省力化が望まれてきました。



「AI配筋検査端末」が解決

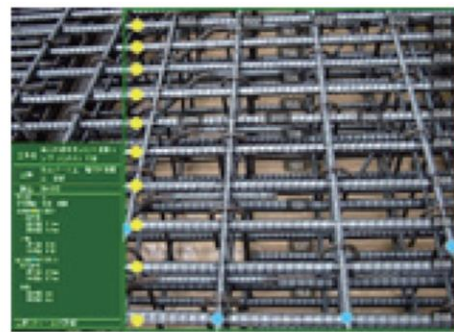
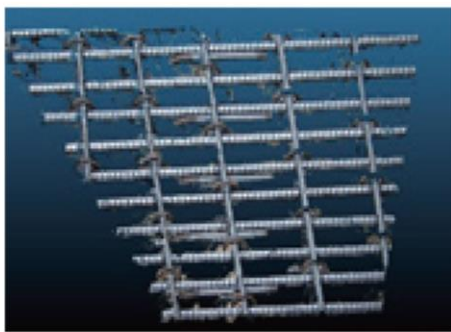
簡単3ステップで配筋検査をもっと簡単に。

1. 事前に必要事項を登録・編集
2. 現場で検査対象を撮影
3. 検査結果帳票(※1)を自動作成

※1：独自フォーマットにてご利用いただけます。

検査帳票作成から検査結果帳票の自動生成まで一連の作業を効率化します。

1 独自の「AI配筋計測技術」により高精度な配筋検査を実現 ※2



写真を撮影

高速3D & AI処理

計測結果を電子化

鉄筋の検出率96.4% ※3、鉄筋径の判別可能範囲D10～D51 ※4、鉄筋間隔の計測精度±5mm ※5

※2：開発元計測実績。

※3：撮影画像から鉄筋を検出する確率（過検出あり）また、撮影条件、対象配筋によります。

※4：撮影画像から鉄筋の太さを検出。D10（太さ約10mm）からD51（同51mm）まで3mm単位で設定されている種類を判別可能です。

※5：100mm計測時。

2 配筋検査帳票生成ツール連携で検査時間を約60%短縮 (検査報告書作成を含む)



配筋検査帳票作成～検査～報告書作成まで、手作業による転記なく自動で実施可能です。

従来の配筋検査と比較して検査時間を約60% ※6短縮し作業を効率化します。

施工管理システムとの連携も可能です。 ※7

※6：建設構造物の規模などにより導入効果は異なります。

※7：現在XMLデータでの受け渡し可能な施工管理システムを対象。

3 過酷な屋外環境での利用を考慮したデジタル配筋検査を実現

雨天など屋外環境での使用への対応 (IP65)、日差しの強い屋外でも見やすいディスプレイを採用